



2006.10.20

【資料2】-1

平成18年9月期国際キワニス『日本地区事業報告書』（2005.10.1～2006.9.30）

前期につきましては、国際キワニス会長シーメンズの合言葉「**“Together We Can”**…みんなであれば、できるとも **“Change”**…流れを変えよう」を日本地区としても採用し、この1年間キワニスドールをはじめとするさまざまなキワニスの奉仕活動を推進するとともに、全クラブへのガバナー公式訪問を通じて、キワニスクラブの体質改善に努力してこられました。その成果は道半ばではありますが、前期に策定されました長期方針を受け継ぐことにより、将来幼児最優先のキワニス奉仕活動は、必ず全国に受け入れられると確信しております。具体的な活動内容を列挙しますと次の通りです。

1. クラブの新設と会員増強

クラブ新設は、前々期からの継続で福島と松江、そして新たに金沢をターゲットとしましたが、福島は中心となっていたいただいた方の急逝によって一時中断していますが、金沢につきましては、今年4月に金沢で開催された日本小児学会を契機に、7月20日に設立総会が開催され、8月30日には、台湾から、日本地区カウンセラーのミッシェル・ウーさんのご出席を得て、チャーターナイトが実施され、日本地区23番目の金沢キワニスクラブが誕生しております。

また、神戸クラブのスポンサーで、今年9月26日には、24番目のキワニスクラブとして、松江キワニスクラブの設立総会が開かれ、今月の31日に、チャーターナイトが予定されております。

その他、熊本クラブのスポンサーで鹿児島クラブの新設が見込まれているなど、クラブ新設の芽は着実に成長しております。各クラブのクラブ新設の動きがスムーズにできるように、マニュアル等も今後整備していきたいと考えております。

一方、**会員増強**につきましては、1500人体制を早く実現したいとして前期スタートしましたが、各クラブの増強運動の成果と金沢キワニスクラブの新設も加わり、期中に1500人の目標はほぼ達成しております（1496人）。これからも長期計画に沿って着実に増加させたい考えでございます。

2. 国際キワニスとの連携

国際キワニスとの連携は、これまでどちらかと言えば受身的でありましたが、前期は国際評議会、ASPAC役員会、国際年次総会等、機会を捉えて、日本の現状や考え方を積極的に発言されてきました。また、国際キワニスへの報告はもちろん、日本地区の独自性の説明や問題点の意見を述べてきておられます。国際本部の日本地区への理解度はまだ十分とはいえませんが、日本地区の実情について、着実に理解が進んできているものと考えられます。

3. 国際会議への積極的参加

「国際会議」には、さまざまな会議がありますが、主なものはガバナーと事務総長が出席して、年度の活動方針を確認する「国際評議会」、各地区の次期ガバナーの集まる「研修会議」、そして、ガバナーが参加する「役員会」があります。これらはいずれもリーダーシップを取る人たちの会議ですが、キワニアンであれば誰でも参加できる大切な国際会議は3つあります。

一つは、全世界のキワニアンが集う「国際年次総会」。

二つ目は、アジア太平洋地域のキワニアンが集まる「ASPAC大会」。

三つ目は、日本地区のキワニアンが集う「日本地区年次総会」。

因みに、前期の国際会議出席数は次の通り。

① 国際年次総会モントリオール大会（目標30名）13名。

② ASPAC高雄大会（目標30名）102名

③ 日本地区年次総会札幌大会（目標400名）353名

特に、今年3月に開かれましたASPAC高雄大会には、日本地区全国から総勢102名が参加され楽しまれたことは特筆すべきことでありました。

4. 奉仕活動プロジェクトの推進

前期のキワニスクラブは、特に奉仕活動とりわけキワニスドールの普及活動に熱心に取り組んできたと言えます。これは単に奉仕活動を進める目的だけではなく、幼い子供を癒すキワニスドールをはじめ、幼児最優先のキワニスの奉仕活動を通じて、キワニスクラブの存在を世間に知っていただき、そのことによって仲間が増える循環を作りたいと願っていたからであり、その意味では、かなり成果を上げることができたと評価されると思います。

① キワニスドールの普及活動

年間2000個作成し、全都道府県の医療機関に寄贈する、そしてこれを通じ、広報活動がスムーズに行われることを目標にスタートしております。

その結果は、9月末現在寄贈数4,036個、延べ369箇所の医療機関等に寄贈しております。また、去年は全国で13の県が空白でしたが、9月末現在空白県は、秋田、山形、岩手、愛媛、高知の5県に減少しました。

前期の最大の成果は、今年4月に金沢市で開催された日本小児科学会に、キワニスドールを展示することができたことであります。この実現には東京キワニスクラブのボランティア活動委員会の、堀井委員長を中心とした会員の周到なる準備と、文字通りのボランティア出張によって実現できております。

今月末には日本保健学会が甲府で開かれ、ここにもドールの出展が行われます。これらの学会は全国各地で開催されることから、今後は開催地のキワニスクラブが主体的に実施できるように、経験のある東京と連携して進めたいと思います。また、来年4月には京都で日本小児科学会が開催される予

定です。

② 日本地区幼児奉仕活動独自テーマの決定（YCPO委員会）

従来、キワニスの奉仕活動は、各クラブの独自な活動によって行われてきております。しかし、幼児最優先の奉仕活動を進めながら、広報にも役立たせるという観点から、キワニスドールのように全国で統一した活動も実効が上がることも確認されております。

YCPO委員会（木全ミツ委員長）は、かねてから日本独自の幼児対象の奉仕活動として、「幼児虐待防止活動」に焦点を当てて、勉強会を行ってきていますが、各クラブとの連携を目的に、委員のディビジョン担当を設定し意見交換を始められております。新年度早々の10月2日に、菅野新ガバナーよりYCPOについて、各クラブ会長宛にメールが発信されたところですが、今後とも活発な交流を期待しております。

③ Adopt-a-Schoolプロジェクトの継続（あと2年継続）

フィリピンの小学校に図書館を寄贈するプロジェクトを3年前から毎年実行してきております。前期もASPAC高雄大会の際に、提唱者のアリス元国際会長夫人中田前ガバナーから2000ドルを手交されております。

来年3月のASPAC大会（マニラ）に参加する機会に、是非、この寄贈した小学校を訪問する計画でございますので、日本から、マニラ大会にご参加予定の方は是非たくさんの方々がこの見学に参加していただければと思います。本件については、後日改めて各クラブにご案内いたします。

5. 広報活動の活性化

各クラブの努力で、今年も各地のキワニス奉仕活動が、マスコミや専門誌に取り上げられたが、前期の広報活動で特筆すべきことは、昨年8月テレビ朝日の1時間番組で、キワニスドールの普及活動が全国放映されたことを受けて、キワニスドールの普及活動とキワニスについて、17分のDVDとVHSの広報ビデオにまとめたこととなります。これを全国に配布すると同時に、英語版も作成し、国際本部やASPAC各地区に配布し、日本の奉仕活動の実態を知って頂くことができました。

その他、国際キワニスの広報誌「Kiwanis」から取材を受けて、広島クラブの留学生弁論大会が、全世界のキワニアンに紹介されております。

6. 表彰について

表彰基準に基づいて前期も次の表彰が決定した。

「クラブ表彰」

- ・ 会員増強 ・ キワニスドール寄贈数 ・ 例会出席率
- ・ ASPAC と国際年次総会出席 ・ 日本地区年次総会（仙台大会）出席

「個人表彰」 新入会員を2名以上紹介 12クラブ 26名

「ガバナー特別表彰」

神戸クラブ（幼児最優先活動）、和歌山クラブ（児童虐待防止活動）
金井昭雄会員（札幌クラブ、永年に亘るボランティア活動）

今年のカバナー特別表彰に、20年間海外の眼の悪い難民に、眼の検査と眼鏡を寄贈し続けられ、このたび国連高等弁務官事務所の「ナンセン難民賞」を受賞された札幌キワニスクラブの金井昭雄氏を加えた。この業績は、キワニスで最高の榮譽である「ワールドサービスマダル」に相応しい業績であると判断して、ただいま国際キワニスに、日本地区として申請中である。

7. K I F への協力

K I F にはこれまで日本地区として、アニュアル・クラブギフトキャンペーンに 335,000 ドル、I D D 募金 1,172,000 ドル、災害義捐金 335,000 ドル、その他の支援 110,000 ドルと合計 1,952,000 ドルの寄付活動に協力してきております。

前期も、各クラブの協力を得て、アニュアル・クラブギフトキャンペーンに 20,000 ドル、パキスタン地震に 12,800 ドル、レイテ地滑り災害に 9,000 ドル、ジャワ地震に 12,200 ドルを K I F に募金して感謝されております。

以上